

平成29年度 第2回 湖西市総合教育会議議事録

1 日 時 平成30年3月14日(水) 午前11時00分～午前11時55分

2 場 所 湖西市役所 市長公室

3 出席者

(1) 構成員

市 長 影山 剛士
教育委員会

教 育 長 渡辺 宜宏

委 員 袴田 雄司 佐原 陽子 河合 禎隆 田中 ゆかり

(2) 意見聴取のための関係者として出席した者

教 育 次 長 (落合 進)

教 育 総 務 課 長 (岡本 聡)

学 校 教 育 課 長 (山田 忠)

幼 児 教 育 課 長 (安形 知哉)

社 会 教 育 課 長 (朝倉 陽美)

ス ポ ー ツ ・ 文 化 課 長 (村田 義治)

図 書 館 長 (山本 茂明)

(3) 会議の事務のために出席した者

教 育 次 長 (落合 進) ※再掲

教 育 総 務 課 長 (岡本 聡) ※再掲

教 育 総 務 課 参 事 (三浦 祐治)

教 育 総 務 課 長 代 理 (馬淵 豪)

4 協議又は調整に係る事項

「幸福度日本一のまち」に向けた子育て・教育の取組みについて

5 協議又は調整に係る事項に関する出席者の発言

別紙のとおり

午前10時00分開会

(教育次長) ただいまから、平成29年度第2回湖西市総合教育会議を開会する。

初めに、市長から挨拶をいただきたい。

(影山市長 挨拶)

(教育次長) 私は本日の司会進行を務める教育次長の落合である。また、本日は教育委員会事務局として教育総務課、学校教育課、幼児教育課、社会教育課、スポーツ・文化課、図書館のそれぞれの課長、館長が出席している。

次第に従い会議を進める。会議の流れは、教育長より協議事項の背景や目的について説明いただいた後、市長より「幸福度日本一のまち」に向けた子育て・教育の取組についての考えを伺い、その後、教育委員より意見を述べていただく。

(渡辺教育長) 今日のテーマについて説明する。

教育委員会では、平成25年に策定した湖西市教育振興基本計画の基本理念である「明日の湖西を創る“ひと”づくり」を基本に、各課で取組を行っている。また、今年度は、地域に出向いて教育施設地域拠点構想について意見交換を進めている。学校教育は、現在の充実と将来の備えの両方が大切である。将来の備えは、人工知能などの技術の進化が進み生活力を付ける必要が求められる。「生活力を付けるには、どうしたよいか」「どのような多世代の交流や異年齢との活動が必要であるか」といった事柄を考えながら、今後の教育について考えていかなければならない。

市長は、「幸福度日本一のまち」づくりを目指している。そのための来年度のキーワードは「職住近接」、「稼ぐ力の強化」である。そのための重点事項の1つに掲げている「子育て支援の充実」について、教育委員から意見を頂き意見交換をしたいと考えている。結論を求めるのではなく、相互の理解を深める会議としたい。

(教育次長) 次に、市長より「幸福度日本一のまち」に向けた子育て・教育の取組について説明いただく。

(影山市長) 「幸福度日本一のまち」づくりについて、何が「幸福」なのかそれぞれ価値観があるだろうが、市民がここに住んで良かった、暮らし続けたいと思えるようなまちづくりが重要だと考えている。平成30年度予算は、どうしたら「幸福度日本

一」になるか、湖西市が更に発展するにはどうしたらいいかという予算編成をした。平成30年度だけで実現するという意味ではない。今後、この取組を継続し、変革や改善を更に重ねながら進めるための予算を編成した。

「職住近接」と「稼ぐ力の強化」という2つのキーワードがある。人口6万人の湖西市は、昼夜間人口の差が1万人ぐらいあり、昼間は企業や工場で働く方が、住んでいる方を1万人近く上回っている。そういった方々に少しでも湖西市に住んでいただければまちが活性化するし、店や宅地が増え「職住近接」が実現できると思っている。

「稼ぐ力の強化」では、少子化、高齢化、人口減少といった問題に対応するために、税金を待っているだけでなく、例えば産業、企業の誘致、観光振興による交流人口の増加といったさまざまな施策により、税金や税外収入の確保を図って稼ぐ力を強化する。それを子育て支援や道路、福祉に投入できる好循環を生み出さないといけない。

さらに、「職住近接」と「稼ぐ力の強化」のための3本柱として、「子育て支援の充実」、「産業の振興」、「観光シティプロモーションの推進」を掲げている。これ以外にも多方面にわたって政策を推進する必要があるが、重点事項としてのこの3分野を推し進めるという意気込みをまとめている。

ただし、今の湖西市の財政は非常に厳しい状況にある。年間予算の半分の100億円ぐらいが税金であるので、税金を増やし、一般会計規模を大きくすることが、市民の皆さんへの行政サービスの向上だと考える。しかし、法人税の税制改正や、旧新居町との合併に伴う普通交付税が32年度で切れることなどにより、このままでは税金は減っていく。そのため、歳出を大幅に増やすわけにはいかない。地方債残高もこれ以上増やすわけにはいかないので、30年度予算では、地方債の発行を9.1億円から7.1億円として2億円減らし、地方債残高も175億円から169億円に減らしている。

こうした厳しい財政事情も踏まえつつ、何が湖西市にとって、市民の方にとってより良い形で生活に直結するのかという代表例をポイントとして挙げた。その中でも「子育て支援の充実」で掲げたのは、「高校生までのこども医療費の無料化」である。去年の秋に児童手当を受給されている子育て世代の方々にアンケートを行った際、要望項目として一番多かったのがこの「高校生までの医療費の無料化」であった。小さいお子さんの子育てに費用が掛かるのは当然だが、高校生にも授業料や塾、部活の費用などが掛かってくるので、子どもの医療費という形で、必要な所に必要な支援が行き渡るよう、用途を定めて支援することとした。アンケートでは、例えば予防接種へ

の助成や給食費への助成など、さまざまな子育て支援への要望があった。財源の問題や支援の範囲など課題はあるが、どうしたら市民やお子さんが健やかに成長できるか研究しつつ、そうした市民からの要望を少しでも実現していきたい。

「子育て支援の充実」ではもう1つ、「こども園化の加速」を掲げた。従来から、岡崎幼稚園と新居幼稚園のこども園化を進めるという方針があった。子育て環境を整え、子どもを預けて安心して働けるという状況を実現するために、こども園化を加速させることとし、予算を重点的に配分した。民間でも微笑保育園、岡崎保育園がこども園化する。民間の園とも力を合わせて子育て環境の整備、充実を図っていきたい。

もちろん、これ以外にも子育て支援は充実させていきたいと思っているし、広い意味での子育てや教育、そして「幸福度日本一」という意味では、湖西市に住んで、住みやすそうとか、楽しそうとか、わくわくするような予算や政策が必要だと考えている。例えば「新婚さん「こさい」へおいでん新生活応援金」は、仮に湖西市の方と浜松市の方が結婚して湖西市に浜松市の方が転居して転入するという場合に、引っ越し代も含めて10万円の新生活応援金を支給するというものである。結婚して家を買ったり建てたりするときに、湖西市から出ていかれる方も多いため、少しでも定住していただける方を増やそうという施策で、子育て支援との連携で好循環を生み出していきたい。この「新生活応援」だけで定住が進むわけではない。例えば住宅ローンの利子補給の拡充、空き家対策の充実も研究している。そういったものと組み合わせて、若い世代の方々が市内に定住を進めていただけるような取組、流出防止のため市内の独身者が結婚したり、出産したりして家を買う、家を建てる時に市外に極力出て行かずに、市内で家を建てるような政策を、充実させる必要があると考えている。

また、「こさいフレンズ」は、例えばこれまで湖西市で勤めていて転勤で名古屋や浜松や東京に行く方、湖西市にふるさと納税をしていただける方に登録していただき、継続的に湖西市の魅力、例えば観光情報、浜名湖や湖西連峰の情報、割引クーポンでの情報、抽選で湖西の名産品が当たるような情報を、LINE@を使って配信し、湖西市の魅力や知名度を高めていこうというものである。その結果、湖西市に観光に来よう、遊びに来よう、もう1回ふるさと納税をしようとか、将来的には住んでもらえるところまでつなげていけたらいいと考えている。この「こさいフレンズ」では、市役所の中の組織を横断して、若手職員を中心に湖西市の魅力を高める発信を検討している。

子育てからは離れるが「高齢者のバス・タクシー利用助成」も行う。現在、75歳以

上の方にはコーちゃんバスの利用助成を行ってるが、タクシーにもその券が利用できるようにする。高齢者の方々が病院や買物に行きやすくしてなるべく外に出る機会を増やし、健康寿命を延ばしていきいきと暮らせるようにしていきたい。また、3月から白須賀地区でデマンドの乗合タクシーの実証実験も始めた。今日までに数十件の利用実績がある。子育て支援や教育も必要だが、こうした幅広い世代にとって湖西市が魅力あるまちになることを願って、今回の予算を組ませていただいた。子育て支援や教育に関しては、教育委員の皆さんからさまざまなアイデアを頂きながら進めていきたい。

最後に、現在ゆとり教育からの方向の転換が図られているが、自分もゆとり教育よりも、知識はしっかりと身につけることが大切だと考えている。中国や韓国では、日本とは比べものにならないくらいの詰め込み教育を行っており、悪いことではないと思っている。知識は詰め込んでいった上で、例えば社会教育や体験を重ねてもらい、多方面で可能性を探っていく教育が必要ではないか。決して時間数を減らし自由な時間を増やすことだけがいいのではない。そのような方向で取り組んでいただくことを希望しているし、実際に今、教育委員会や各学校でも取り組んでいただいていると思っている。そのあたりについても意見を頂きたい。

(教育次長) 次に、教育委員の皆さんから発言をお願いしたい。初めは田中委員にお願いする。

(田中委員) 私は、湖西市だからこそ力を入れられるスポーツを推進することで、世界へ羽ばたく選手が育成されることを願っている。全国から選手が集まる大会を開催することで、湖西市の知名度が向上することを期待する。

平昌オリンピックの女子カーリング選手の「常呂町が何もない町だったからこそ大きな夢がかなえられた」という言葉がとても印象的であった。町を挙げてカーリングに取り組み、世代を超えて楽しめるスポーツとして盛り上がったところから始まったのではないかと思う。まちを挙げて特化できるスポーツが見つかれれば、湖西市は交通アクセスも良く全国から集まりやすいので、将来的には国際大会に発展するようなスポーツ大会の開催などの夢が持て、市民の気持ちの盛り上がりも違ってくるだろう。

2点目は、学校施設の複合化である。複合化で、子どもとお年寄りとの世代間交流が出来ることを期待している。囲碁や将棋で若い世代が活躍しているが、例えば棋士を目指す子どもがそのきっかけを持てるような施設があるとよいと思う。新居にある

老人福祉センターではお年寄りが囲碁や将棋を楽しんでる姿を見る。土日にお子さんへ開放すれば、子どもに教えてあげるという世代を超えたコミュニケーションにより、お年寄りは生きがい、子どもたちは守られているという気持ちを持つことが出来る。

学校は、2001年の大阪教育大附属池田小学校で無差別殺傷事件があった頃に閉鎖的になったと思う。複合化は、多様な人とのコミュニケーションという意味では、大変便利で有効だと感じているが、その反面、安全性が確保できるのか不安に思う。

(影山市長) 新居地区は昔からスポーツにまちを挙げて取り組んでいて、スポーツ少年団など全国レベルの活動が多くある。指導者や家族の皆さんには引き続き協力を頂きたい。

湖西市では、2020年の東京オリンピックに向け、今年の夏に卓球のスペイン代表チームが合宿を行った。施設は、平成15年の国体で卓球競技の会場となったアメニティプラザが、今もしっかり使える状況にある。また、アスモの女子卓球部は、全国レベルで活躍している。ラージボールも高齢者を中心に普及している。卓球は、幾つになっても手軽に、気軽に楽しめるスポーツなので、楽しんでいただける環境づくりは継続して進めていきたい。カーリングで常呂町の皆さんが和気あいあいと楽しめる状況はすごくうらやましい。湖西市でも卓球だけではなく、スポーツ推進委員の皆さんが頑張っていてデカスポテニスなども広めていただいている。そうしたことを続けていくことも必要だと思っている。全国から集まる大会の誘致も可能性を探っていきたい。

施設の複合化は、昨日公表させていただいた公共施設再配置個別計画においても、不可欠だと思っている。例えば、こども園や保育園と特別養護老人ホームなどとの複合化の事例は既にある。世代を超えた交流が相互に良好な効果を生み出したという実績も聞いている。複合化の組合せについては公共施設の再編の中で考え始めているし、市民会館も新しく造るからには複合化して利便性を向上させた施設にしていきたい。

新居地区の例が出たので申し上げておくと、わんぱくランドは老朽化により、ここ数年以内に大規模改修か別の用途での使用か、選択を迫られる。周辺には海湖館、かき小屋、海釣り公園といったにぎわっている施設があるので、そこと連携して一帯を客を呼び込める施設にしようと、地元の方々と一緒に絵を描き始めたところである。民間企業の資金の調達も考えていきたい。例えばあそこをビーチバレーを呼べる聖地にしたいという提案も頂いている。また、浜松市長は浜松や浜名湖をマリンスポーツの聖地とするとおっしゃっているが、浜名湖観光圏の中で湖西市の果たす役割は大き

い。湖西市には、サーフィンに訪れる人も多く路上駐車も多いので、わんぱくランド南側の駐車場をはじめ遠州灘沿いをなるべくお金を掛けずに有料駐車場にする案も頂いている。そうした中長期的な交流人口を増やす取組も行っていきたい。

(教育次長) 続いて、河合委員にお願いします。

(河合委員) 小学校、中学校の先生は県の職員であるので、その多忙化の改善を市が出来ないのはいたしかたない。しかし、市立幼稚園、保育園の先生は市の職員であるので、働き方改革に重点を置き、多忙化の解消をお願いします。私は、しらゆりこども園のバスの運転手を勤めている。そのこども園では、新規採用職員4人のうち2人が1学期中に辞めていった。その理由は、給与面ではなく、忙し過ぎる、残業が多過ぎるということであった。そういう人間は基本的に、自分の生きがいとして再びその仕事に就きたいとは思わないだろう。今年度、市の幼稚園教諭の新規採用職員についても、内定者5名のうち3名が辞退したと報告を受けている。公務員でも人員の確保が難しいようである。幼稚園教諭や保育士の学校に進学する生徒は多いが、求人募集に応募してこない。行事などで忙しくなるのは当たり前かもしれないが、結婚前の若い先生たちが辞めないような状態を作っていただければありがたい。

別件であるが、先般、市議会の一般質問でLGBT、トランスジェンダーの問題を取り上げていた。窓口で「同性パートナーシップ証明書」を発行してはどうかという、大人に関する話であったと思う。新聞記事でも取り上げられていたが、私は、学校の先生たちに対するLGBT教育が足りないのではないかと思う。小学生の時にそういうことに目覚める場合もあるので、小学校の先生たちに理解を深めていただく講習会などから始める方向性で進めていっていただけたらと考えている。

(影山市長) 働き方改革と言われている中、幼稚園や保育園に限らず、仕事は仕事としてきちんとやっていただく必要はもちろんあるが、プライベートの時間を確保し、働く意義を持ってもらうため、私立・市立に関係なく、小学校、中学校も含めて、多忙化を防止するためにできることは極力やっていきたいと思っている。また、支援員や教員そのものの適正規模の配置は、当然しっかりやっていきたい。

なお、個人的には、幼稚園や保育園が市立である必要はないと考えている。すぐに民営化というわけではないが、時代の要請として業態転換が必要だろうと思っている。

LGBTに関しては、河合委員の意見に賛同する。一般質問でも教育長から答弁があったが、学校などで理解を得られず心無いことを言われたり、知識がなくて誤解を

受けたりすることがないようにしなければいけない。正しい知識と認識を持たせる場が、学校にも必要だと思っている。そうした方々がいることを知らず、正しい知識を持たずに過ごす、誤解に基づいた偏見が生まれるので、教育現場でも伝えていく必要があると思う。この件については、学校でも機会を捉えて取り組んでいくものだと理解している。

(教育次長) 続いて、佐原委員にお願いします。

(佐原委員) 「幸福度日本一のまち」に向けた子育て、教育の取組を推し進めるには、湖西市に住みたくなるような市独自の個性のある取組が必要ではないかと考える。

「湖西市で子育てがしたい」と言われるような市になることを期待する。

例えば、「湖西市には不登校がない」ということを掲げられたら、本当にいいと思う。現在、不登校になった場合はスクールカウンセラーのカウンセリングを受け、深刻になると豊橋市や浜松市の専門医を紹介される。それは湖西市に専門医がないからである。また、浜松市では、教育委員会の中に発達支援担当があり、幼児期から小学校、さらには就業まで支援を受けられる仕組みになっている。湖西市にはない取組なので、今後考えていただけるといいと思う。

「ヤングダイヤルこさい」については、経年の相談件数を確認してもらったところ、縮減傾向にある。平成29年度は1月末で10件の実績となると、別の支援についての検討も必要ではないかと思った。

最後に、英語教育の取組についてである。現在、ALT 4名で運営されている。英語教育は、小学校でも始まり、授業は担任が行うことになっている。ALTも学校に来ることになっているが、先生方には打合せや連絡などの準備が負担となっている。静岡市ではGETという英語教育を支援する教諭を配置するという記事を、新聞で見た。そういう先生の手助けになるような人員配置を行うことで、湖西市でも教育の質を上げることが出来るのではないか。

これらの面から、湖西市独自の教育に対する市長の思いを伺いたい。

(影山市長) 英語教育については先日、佐原委員自ら講師を務めていただいた。感謝申し上げます。市民参画による英語教育をはじめとするさまざまな子どもたちへの教育を、親しむところから始めていくのは、非常に重要だと思っている。浜松市や豊橋市並みの大掛かりなことをやることには限界があるので、何か1つでも、充実しているもの、他のまちよりも秀でているものをつくっていききたい。浜松市の支援センターも

いっぱい、医師などの人材的にも厳しいという状況だと聞く。湖西市でも実際にそういう要望があるのは承知している。需要に応える態勢を整えることはもちろん必要だと思っている。しかし、湖西市が秀でているものにどんなものがあるかは、英語教育や先ほどのスポーツがその候補となるかもしれないが、まだこれだというものはない。そこは、学校現場の状況や声も聞きながら進めていきたい。

ヤングダイヤルについては、改善の余地があれば取り組んでいきたい。

また、先ほどの英語教育の静岡の事例のように好事例があれば、紹介していただき、参考にして研究させていただきたいので、引き続き、皆さんのから提案を頂きたい。

(教育次長) 続いて袴田委員、お願いします。

(袴田委員) 私は、定住促進の魅力の1つになるものとして、子育て世帯への医療の充実を提案したい。浜松市では、夜間救急は12時まで小児科医がいる。湖西病院に行くより浜松方面に行った方がいいと、子育て世代の人たちは思っているのではないか。湖西市は豊かな自然に恵まれているので、医療の分野も徐々に充実させていけば、子育てには湖西市が適しており、魅力があることを発信できる。せっかく昼間、多くの人が湖西市で働いているのだから、その人たちに湖西市には魅力があるからそのまま湖西市で住みたいと思ってもらい、子育て世代の人たちを取り込むことができたらいと思う。

(影山市長) 定住促進には何がいいか、日々模索している。さまざまな自治体の好事例や失敗事例を参考に、定住促進の実現に向けて取り組まないといけない。

救急医療、小児救急は、本当に困った時のより所になるので、湖西病院でできるのか、他の方法となるのかは分からないが、実現できたらいいなと思う。医療分野について申し上げるならば、産婦人科の問題がある。分娩施設がなくなってもう10年になる。自分の人脈を通じたお願いは、継続して行っている。夜間救急の問題は、安心して出産、育児、教育、子育てができる環境のためにしなければいけないことだと思う。湖西病院についても今回、事業管理者を迎えた。ずっと聖隷でやっておられた方なので、例えば眼科に関しても白内障の手術ができるようにするなど、新しいアイデアで経営改善を進めている。聖隷とは大分違うという認識を持たれ、何をしなければいけないかも分かっておられるようなので、今月中に出る経営診断の結果を基に改革プランを改訂して、コスト削減を市と一体となって進めていく。市民の皆さんが安心して、信頼して医療機関にかかれることによって、住みやすいと感じ、住んでいただき

たいので、小児科医や夜間救急の問題については、実現に向けて研究を進めていきたい。今後も提案を頂くとともに、知り合いに産婦人科医がいれば紹介いただきたい。

(袴田委員) 子どもたちが5年後、10年後に、湖西に戻ってきたい、湖西が好きだというような、住みやすい、好かれる地を目指していろいろな計画を立てていただいているので、計画の実現に拍車をかけていただきたい。

(影山市長) 短期で結果を出すことは難しい。5年後、10年後、30年後に向けて道筋をつけ、子育て支援、道路整備、企業誘致などを総合的に進めなければいけない。

(教育次長) これまでの意見を聞いて、教育長から何かあるか。

(渡辺教育長) 本日頂いた意見を今後の教育にもいかしていきたいし、市政にもいかしていただきたい。今後も、委員の方々からいろいろな事例を教えていただきながら、より良い教育を進めてまいりたい。

(教育次長) 活発な意見交換に感謝する。その他何かあるか。

(影山市長) 貴重な知見を頂いたことに感謝する。これまでも、市長と語る会や若い世代の意見交換会で、さまざまな意見を頂いている。今年7月に湖西市長杯サーフィン大会の企画提案があり、ほぼ実現される見込みである。これは、田中委員から提案いただいた湖西だからこそ力を入れられるスポーツの推進であり、交流人口の増加にもつながると思う。湖西市の環境をいかしてできることは、それだけではない。わんぱくランドについても、先ほど申し上げたとおり、市だけではなく、地元の方をはじめいろいろな方々に協力を頂きながら、再編を進めていくことが必要だと思う。学校や市民会館などの公共施設についても同様である。それには、皆さんのアイデアが重要になってくるので、引き続き意見を頂きたい。

(教育次長) 以上で平成29年度第2回総合教育会議を閉会する。

閉 会 午前11時55分終了